



### ● 第21回市民公開講座 骨髄移植を知ろう が開催されました

11月26日(土)、十和田市の十和田市民文化センターで開催され、県内各地から200名を超える参加がありました。初めての十和田市開催。これまでで最高の集客となりました。

今回も第一部では、骨髄移植とドナー登録の概要を知って頂くための講座です。県立中央病院血液内科の久保先生、青森県骨髄バンク登録協会の島見さん、県立中央病院8階西病棟の成田看護師さんから、ご説明をいただきました。

第二部では、十和田市や七戸町など、開催地近隣在住のドナー経験者の皆さんと、患者さんを代表して大宮司さんが体験談をお話していただきました。地元の皆さんの発表ということで、いっそう身近なこととして感じた参加者の皆さんも多かったのではないかと思います。



ドナー経験者の皆さん

そして今回も、青森山田中学高等学校吹奏楽部の皆さんの演奏がとても素敵でした。今回は、卒業生で、現在は神奈川県横浜消防音楽隊でプロとしてご活躍の佐々木静香さんによるトランペットの独奏もありました。在学中にはこのステージに参加していたと話し、この会のためにわざわざ駆けつけてくださいました。「いのちのリレーコンサート」と題したこの演奏会の“こころ”が生徒さん達の中に引き継がれているのですね。



大宮司さん



また、第二部ではドナーさんへの質問を生徒さん達がくださり、一緒に骨髄移植への理解を深めることができました。

最後は「ありがとう」の歌を生徒さん達も一緒に歌っていただき全体を通して、一体となって作り上げた公開講座となりました。高橋先生をはじめ吹奏楽部の皆さん、ありがとうございました。

### ● まろまろクリスマス会

12月17日(土)にクリスマス会をおこないました。サンタクロースやトナカイに扮した会員が病室を訪問して手作りの記念品をプレゼント。

今年は、会員の有志で、こぎん刺しのツリー(写真)を作成しました。また、献血ボランティアグループの皆さんからは、希望者に「タオル帽子」を贈呈。

そのあと、あらかじめ飾り付けした8階病棟食堂で、お菓子と飲み物で茶話会をして過ごしました。

また、今年も(株)アデランスさんからは、参加の患者さんに素敵なプレゼントをいただきました。ありがとうございました。



こぎん刺しツリー



献血ボランティアの皆さん



# ● まろまろからのいろいろなお知らせ



## バス遠足



参加費徴収中！  
みんな真剣な顔



10月1日(土)、秋のバス遠足が行われました。

会場は昨年に引き続き弘前市相馬の「星と森のロマンピア」。

今年は非の打ちどころの無いバーベキュー日和。

温泉に浸かって心身ともにスタンバイの後は、お待ちかねの「カンパニー」



はい、到着。  
使用前の集合写真



「乾杯はまだか〜い」  
温泉に行った人の帰りをじっと待つ

今年は県立中央病院血液内科の富士井先生、臨床検査の寺澤先生もご参加くださり、ゆったりとお話を伺いながら一緒にバーベキューを楽しむことができました。



寺澤先生の音頭で、  
お待ちかねのカンパニー!!



宣誓!



かんぱい



さっそく、  
肉肉・・・焼く焼く

食べて



呑んで



お腹は  
満ば〜い!



使用後の集合写真



また来るね〜

## ♪♪♪ リレーエッセイ ♪♪♪

## 第15走者 山本菜穂子さん（会員）

もう10年以上も前になる。今、夫は生きている。当時小学校低学年だった末の息子も今年成人した。そのように時が流れたことに、今あらためて感謝している。誰が良かったのでも誰が悪かったのでもない。先生方にもお世話になり、そうして時が流れた。

あるがままに受け止めざるを得ないことが、人生には起こる。そのことを拒否することはできず、その中であがくしかない、そういうことが起こる。あがける力がある限りあがきたい。そう思う。夫は強かったと思う。私があのような立場ならあんなに頑張れたらどうかと、今もそう思う。

「夫が風邪をひいた」と思っていた。熱が下がらず、38度前後の熱が続く。でも、風邪で出る熱とどこかが違う。隣で見ていてそう思っていた。何度も医者に行った。1週間、2週間と過ぎていく。痩せ方が尋常でない。何か良からぬことが起きている。そう感じていた。

一月後、大病院を紹介された。そして、診察の結果すぐに検査入院となり、夫と共に呼ばれた別室で聞かされた結果は「悪性リンパ腫」。「このまま薬が効かなければ余命1か月。薬の効く確率は40%」とか、何か言われたような気がする。でも、パーセントって何だろうって、心の奥で思っていた。この人が生きるか死ぬかは100か0以外無い。パーセントで示されることってなんの意味があるんだろうと、なんだかその時の自分の気持ちとはかけ離れすぎていて、了解不能だった。ぶつけようのない怒りのようなものを感じていた。

夫への余命1か月の宣告。これをどう受け止めよう。その瞬間、いろいろなことが廻った、様に思う。実際はストップしていたのかもしれないが。宣告を受けたのは私ではない。隣で自分のこととしてこの宣告を聞かされた夫のショックを思った。私がショックを受けている場合ではない、この人に何と声をかけたらいいのだろう。そして、家にいるほかの家族のことを思った。お世辞にも樂觀的とは言えない夫の母には何と言おう。少なくとも今、余命のことは言わずにおこう。そして小学生の子どもたちのことを思った。まだそのまま話をしてしまうわけにはいかない。もう一度夫のことを思った。あと1か月としたら、何をしておきたいだろう。

でも、夫は元気だった。夫自身も後でそう話しているが、私たちは終わる気がしなかった。できる限り休みを取り、私は一緒に病室で落語のDVDを見て過ごした。笑っていた方がいいと夫の友達が教えてくれた。笑うと免疫力が高まると。私は、病院と自宅を往復する車の中でだけ泣いた。1週間、2週間、肺にたまっていた水が少しずつ減り、薬の効果が現れ始めた。

患者さんが苦しいのはそのとおりで。でも、家族にも苦しい思いがある。そのことは十分に語られる機会があるのだろうか。家族の怒り、家族の憤り、家族の後悔、家族の喜び。患者さんの苦しみの裏で、吐きだせずにたまったままになっている家族の思いを聴くことも、患者・家族の会まろまろの存在意義であってほしい、ありたいと、今あらためて思っている。

# ● まろまろ新年会2017のお知らせ

## ◇とき

平成29年1月28日(土) 午後6時から

## ◇ところ

ホテルクラウンパレス青森  
青森市本町5-5-4 TEL 017-775-1151

## ◇会費

3,800円



## ◇お申し込み

同封のハガキでお知らせください。  
準備の都合上、1月19日までに投函してください。



お問い合わせは、090-1372-1610(レク担当:高坂)、  
または090-9634-6703山本まで。

駐車場あります。  
ノンアルコールのビールなどもあります。

## ● 「みんなで知ろうがんフェスティバル」 が開催されました

日時:8月28日(日)12:00~16:00  
場所:弘前市 土手町コミュニティパーク

弘前大学附属病院の主催で、「がんと暮らし」、  
「正しいがん情報の探し方」などを学びました。



## ● 「がん患者ささえあいフォーラム2016 ～がんとの共生～」が開催されました

日時:12月3日(土)13:00~16:00  
場所:青森市 アピオ青森

がん患者や家族が、がんを知り、がんと向き  
合い、がんを乗り越えていかれるように応援す  
るため、がん患者団体等との協力のもと、県立  
中央病院が主催して開催したものです。

今年は「がんとの共生」を全体テーマとして、  
「がんに関する社会資源」についての講演、  
がん体験者をゲストに  
迎えてのトークセッションなどが行われました。

まろまろブース  
展示に参加しました。



## 骨髄バンク情報 (H28年11月末現在)



	全国	青森県
患者登録者数	1,440人	12人
ドナー登録者数	468,433人	7,993人
対象人口千人あたり	8.27人	14.13人(8位)

—資料: (財)骨髄移植推進財団—

## 血液疾患と歩む患者・家族の会 まろまろ

<事務局連絡先> 青森県立中央病院 血液内科 外来  
TEL 017-726-8141 FAX 017-726-8083  
〒030-8553 青森県青森市東造道2-1-1

県病HP <http://aomori-kenbyo.jp/shinryo/ga/ketsueki>  
ブログ <http://maromaroaomori.cocolog-nifty.com>

